

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400865		
法人名	有限会社エーアステス		
事業所名	グループホームMyほ～む童里夢		
所在地	札幌市西区西野2条1丁目2番1号		
自己評価作成日	令和2年12月7日	評価結果市町村受理日	令和3年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&Jigvsvocd=0170400865-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和3年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が毎日の生活を生き活きと笑顔で過ごせるように、コミュニケーションの取り方や他関わり方を工夫しています。また日常的にラジオ体操やレクリエーション活動を通して、他入居者様とのふれあいや寝たきり防止策に努めております。特に今年は新型コロナウイルス対策で外出が難しいため、ホーム内で一人一人の趣味や残存能力に合わせたレクリエーションの取り組みを行っています。
ホーム内の掲示物等においては、四季折々の行事等をテーマに変更して都度入居者様同士や職員と交流しながら作成して頂いております。毎年恒例で夏になると民生委員の方が蛭を虫かごで持ってきて下さり、夜に電気を消して鑑賞し各々楽しまれています。
ご家族様には安心して頂けるように状態の変化があれば、管理者又は介護支援専門員よりご連絡させて頂き、個々にあったケアや対応を実施しております。今後も入居者様やご家族様と信頼関係を構築しながら日々笑顔で過ごして頂けるように日常のケアを実施して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、市内中心部から西方面に約10^分。離れた西区西野の閑静な住宅街にあり、すぐ横を寒泉川が流れており、川沿いに植えられた桜や梅の花々は居間から充分に堪能でき、利用者は川のせせらぎや花や雪の四季の移ろいを身近に感じながら穏やかな日々を過ごしている。建物は木造2階建ての1階部分を高齢者住宅と併用し、当事業所では1ユニット9人の高齢者が生活を共にしている。設立は2003年と古く、同じ西区の山沿いで運営していたが数年前に新築移設となった経緯があり、また母体法人は居宅事業所や訪問看護、訪問介護、高齢者住居等を展開している。当事業所の優秀な点として介護に対する原則的で丁寧な対応を取り上げたい。当事業所は裸足の介護を指向しており、上履き等を介護員は使用していない。事業所内での上履きは、台所やトイレを行き来しており作業靴の存在だが、その作業靴のまま利用者の居室にも入る事も想定され、元来から家庭では上履きの習慣がない場合も多く、当事業所の裸足による日常介護を高く評価したい。次に24時間の医師・看護師との連携体制と職員の意識向上について触れたい。綿密な連携によりこれまで幾人もの看取りを行っており、終の棲家としても、本人・家族の安心に繋がっている。利用者の平穏な生活を支えている職員は、研修会や勉強会で知識・技能を磨き、理念の「明るい笑顔と活気あふれる生活」の実現を目指し日々研鑽に努めている。「グループホームMyほ～む童里夢」はこれからも大いに期待したい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や組織については内部研修を通して行い統一した介護を目指しております。	運営理念は利用者が墨で書き上げ、額装し事業所内に掲示して内外に宣言し、また運営方針は3項目にわたり重要事項説明書に明記し、理念に基づいた統一のある介護を実施している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議でや町内会の新年会等に参加し交流を深めております。	町内会に加入し行事やお祭り等で、また日々の散歩でも挨拶を交わすなど、ふれあいを大切にした関係性を維持・促進している。事業所近辺の通りの清掃やゴミ拾いなどを行っており、地域との交流の輪を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の際に入居者様の状況を説明しつつ認知症の人への理解や支援の方法についてお話をしております		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況報告やサービス状況、取り組み等を報告し、サービスの向上に努めております。	運営推進会議は定期の2ヵ月毎に併設の高齢者住宅と合同で、包括や民生委員、町内会役員等々の参加で開催している。現況報告や前回の意見、要望に対し、改善策を伝えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本来は2ヶ月に1度西区の管理者会議に参加し、区や市の連携を図っておりますが、コロナ過で文書での連絡等になっております。	行政の窓口とは、運営推進会議や実施指導、制度の運用についても随時指導を受けており、また2ヶ月毎の西区の管理者会議でも情報交換に努めており、信頼性のある関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部外部研修を通して全職員に身体拘束禁止の徹底していると共に、非代理性などの3項目についての理解を徹底しております。	事業所内に身体拘束等適正化委員会を設置し、指針を定め2ヶ月ごとに行っている運営推進会議の中で委員会を開催している。議事内容は、日頃の介護の検証と検討であり、また直近の会議で職員にも周知徹底し、常に日頃の実践をチェックシートも活用しながら客観的に確認し、拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議で話し合いを行っております。全職員が理解するように内部研修や外部研修等で学んでおります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して理解し、個々の代弁者としてなれるように、それぞれの権利を理解していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には契約内容、重要事項について十分な説明を行い理解、納得していただいてから契約を行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設け、意見・不満・苦情等を伝えて頂くようにしております。何かあった場合は迅速に話し合いの場を設け状況を把握し、運営に反映できるように心掛けております。	家族の意見や苦情は来訪時や電話等で伺い、必要に応じて事業所内で論議検討し解決策を講じている。また本人の様子については、連絡ノートや個人記録を精査共有し、毎月の事業所便りでも伝え、家族の安心感に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的カンファレンス兼ミーティングを開き、運営内容に関する話し合いや入居者様の状況を検討し、情報を共有して職員の意見や提案を聞く機会を設けております。	毎日の申し送りや月1回の会議で、職員は運営関連やモニタリングを含むケアに関して、意見等を提案し、管理者は職員からの意見等を代表者に報告し、働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状態を聞き、把握し向上心を持って仕事に取り組めるように職員とのコミュニケーションを常にとりながら、働きやすい環境づくりに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修の参加と日々のケアの中で必要に応じた指導を行い、職員のスキルアップに努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議への出席、他グループホームとの合同の行事等の参加をすることで今まで交流を持ちサービスの質の向上に努めてきておりましたが、今年度はコロナ過で出来ない状況です。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを取り、入居者様の性格や個性を把握しご本人らしい生活が出来るように努め、信頼関係を築いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様やご本人様とお話を十分に行い、ご意見や要望を良く聞いて良好な関係づくりに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の話を良く聞き取り、ご本人様が生活するうえでの問題点を考え考慮しながらケアプランを立てて支援しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を家族だと思い、入居者様の気持ちに寄り添いながら共に過ごしております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様をよく観察しコミュニケーションをとって、入居者様の状態を把握しご家族様に報告して共有の情報で支援していくように努めております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人の方が気軽に面会出来るように対応しております。その際は必ず身元の確認をさせて頂いておりますが、現在はコロナ過でお断りを余儀なくさせて頂いております。	以前の生活の場が札幌市内一円であり、馴染みの場所や親しんだ所、墓参り等は家族にお願いし支援している。馴染みの家財や懐かしい家族写真等は自室に持ち込み、大切に維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々レクリエーションを行い、入居者様同士が楽しく関わりあい楽しく過ごせるように支援しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続してよい関係が保てるように必要に応じて付き合い等を行わせて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中から希望等をお聞きしてケース記録や連絡ノートに記載し職員間で情報を共有できるようにしております。困難な希望や思いをうまく伝えられたい入居者様にはなるべく近いものを提供し、その人らしい生活が出来るように支援しております。	利用者の日々を支えながら、思いや願い、希望と意向、好き嫌い等を把握している。重篤な状態等で意思疎通が困難な状態でも、仕草や表情などから、また生活歴等から本人本位の生活になるように支援に臨んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人様、ご家族様より入居前の生活について 充分にアセスメントを行わせて頂いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の体調や気分等に応じてその方にとめ合った場面作りが出来るように努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の希望を基にカンファレンスでは担当者のケアを中心として意見やアイデアを出し合ってケアプランに反映させております。	担当がモニタリングを含め課題や介護のあり方について提案を行ない、カンファレンスで討議し、確認しながら介護計画を作成している。病変等が生じた場合は、現状に即して検討し、実情にあった介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、気づき等を個人ノート等おりに記録し職員間で情報を随時共有しております。又、ケアプランの見直しにも活用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同系列の事業所と連絡を取り、ご本人様・ご家族様のニーズに応じた支援を行わせて頂いております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難(防災)訓練には入居者様も参加して頂いております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師が週2回対応に当たっております。又、隔週の訪問診療で対応させて頂いております。急変時は随時対応を行っております。	かかりつけ医は、利用者や家族の意向に沿って支援を行っている。協力医による月2回の往診体制を整備し、かかりつけ医への外来受診は基本的には家族対応としているが、困難な時は職員が同行しており、健康状態を共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身共に異常が生じた時はすぐに看護師に相談し、適切な受診が受けられるように日常の健康管理をしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と相談しながらご本人様やご家族様の意向も聞きながら対応しております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、出来るだけ早い段階でご家族様・往診医・看護職員で話し合いを行い、職員同士ケアの方針を共有しております。	終末期について、看取りの指針を契約時に書面で説明し同意を得ている。最終段階は主治医を中心に事業所として対応し、適切な介護の提供に努めている。現状は利用者の大部分が看取り希望者であり、主治医の協力を得ながら利用者の意向に最後まで沿えるよう、努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応策のマニュアルを作成し、応急手当等は看護師又は消防施設での訓練などで行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で定期的に避難訓練を行っております。又、全職員が避難時の誘導等対処の仕方を理解できるように指導しております。	年2回の夜間・日中想定避難訓練は、併設の事業所と合同で行っている。消防署員の総評や職員の気付きを、今回の訓練に生かしている。お米や乾麺、水等の備品については随時用意し、毎年確認している。	冬季の災害を想定し、電気に頼らない暖房装置の十分な確保は、高齢者の生活を預かる側として必然であり、特に北海道の寒さは想像を絶すると思われ、早急な用意により安心できる防災体制の確立に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせてプライバシーを損ねないように言葉かけをして対応しております。	接遇は介護の根幹であり、声掛けや誘導、促しに至る介護者としての行動を振り返りながら点検している。研修にも接遇を取り入れ、対人援助の基本を学び直している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が上手く出来ない方には時間をかけて職員から声掛けをし、思いや希望を表せるよう働きかけ対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、せかす事なく希望に添えるように支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用したり毎朝や入浴後に職員が整えております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	あ各入居者様に出来る事を負担のならないようにして手伝って頂いております。	食事は業者から届けられたものに、ご飯を用意し提供している。利用者からの要望には、行事食や誕生日会、おやつ等で応えており、楽しい食卓になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じておかゆや刻み食、ミキサー食にし、水分量も確保できるように一人ひとりの食事の記録をしながら全職員で支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後見守り・介助にて口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方には、時間や行動パターンや排泄記録を見ながら声掛けや誘導して失敗が少なくなるように支援しております。	トイレでの排泄を基本として、時間で誘導し排泄を促している。その他、利用者個人の排泄サインも職員で共有し、本人が負担にならない様、自然な形で排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝はラジオ体操・午後は体操をして体を動かし、水分をこまめに摂って頂いております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やその日の気分に応じて無理強いせずの様子を見ながら入浴して頂いております。	入浴は週に火曜日と金曜日の二回を目途に同性介護で行っている。拒否者には無理強いする事なく、時間や環境、対応者等を変えながら、楽しいお風呂になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調が優れない方や長時間座位状態の方には居室で休んで頂き、時間を見ながら声掛けをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量を把握して状態に応じて医師や看護師の指示を受けながら薬の増減をし、服薬の支援をして、症状の変化を確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の出来る役割を持って頂き、画期ある生活になるように支援しております。又、季節に合わせたレクリエーションも行いながら楽しみや気分転換になるように支援しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のラジオ体操に暖かい日は外に散歩に出られるように努めたり、外出は個々の希望を聞き入れ楽しんで頂けるようにしておりますが、今年はコロナ過の為外出は控えております。	住宅街の庭を拝見したり、季節の花々を眺めながらの散歩が日々の日課であり、また近くの川縁にある桜見物も楽しみになっている。また毎年の長沼の農園でサツマイモやトマトの収穫、その後には外食して帰宅するのが恒例になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様やご家族様の希望により管理できる方は現金を持って頂いております。管理が必要な方は使用時に援助しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出す支援や電話をかけたい方には対応させて頂いております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じるような壁掛け等を入居者様と一緒に作成して楽しんで頂いております。又、行事に沿ったものを展示するように心掛けております。	大きな居間には、食事するコーナーと窓辺に設置した大小のソファがあり、利用者はソファに座り、テレビや新聞を見たり編み物をするなど自由に過ごしている。台所は居間と一体化しており、利用者を見守りながら食事の準備ができる。居間の窓からは発寒川を望むことができ、桜や新緑等の季節の移り変わりが楽しめ、利用者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や居室の大小様々なソファや食堂においても見守りの元ゆったりと安心して生活が出来るように配慮しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や昔なじみの家具等を配置したり、お誕生日など職員の手作りカード等も飾られ穏やかに安心して過ごせるように努めております。	居室は利用者が今まで使用していたなじみ深い家財や家具が持ち込まれ、子供や孫の写真も貼られるなど、ゆっくりと過ごせる自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂等わかりやすい案内版を使用しております。又、手すり等を設置して安全に移動・歩行等ができるように廊下には物を置かないように整理しております。		